

実りを求めて

近藤 朗

我が家の夏の楽しみの一つに「夕顔」があります。以前勤務した東蒲原郡阿賀町。そこで出会った夕顔の味が忘れられなくて、転勤してから毎年、夏の実りを求めて出掛けて行きます。

今年も例年に倣い、夕顔味噌汁、夕顔ステーキ、夕顔と野菜の煮浸しなどを思いながらいつもの物産直売所に向かいます。いつもなら二十本から三十本の夕顔が店からはみ出すように並んでいる光景を描きながら車を走らせません。

ところが、何ということでしょうか。夕顔が一本もない。何故？ いつもと同じ時期なのに、いや少し遅いくらいなのに。直売所のおばあさんに「夕顔はないですか。」と尋ねると、「今年は天気がおかしくてまだなんですよ。」しぶしぶ帰ってきました。

十日ばかり経ち、もうそろそろ店を賑わせているだろうと勇んで出掛けます。ところが、残念。「今年は少ししかできなくて、すぐ売れていもうんですよ。ごめんね。九月に入れば少しは出てくると思うよ。」またもや振られてしまいました。

そして三回目の挑戦。ようやく夕顔に出会うことができました。しかし、

本数は少なくやや小振り。形もちよつと。それでも夏の楽しみを手にし、何かほっとしたのです。猛暑だったのか爽やかだったのか、例年とは違う今年の夏。そんな中でも夕顔は実つてくれました。感謝です。

今、毎朝、犬の散歩道にある果樹を眺めています。柿の実はずつ色づいてきています。イチジクの実も先端が開き始めてきました。時間を掛け、季節を跨いで実を膨らませ、誇らしげに枝についている姿を見ると、自然のエネルギーのすごさを感じます。温かい時もあれば、荒れた天候の時もあつたはずです。でも、一生懸命に栄養を蓄え、今、実りの季節を迎えています。子どもたちも春からたくさんの栄養を吸収しこの季節を迎えています。先日、六年生と行った佐渡自然教室。六年生が見せた姿は素晴らしいものでした。

子どものもつエネルギーはすごい。そのパワーに私たちもエネルギーをもらっています。子どもたちにより多くの実りがありますように、まっすぐと伸びていきますように、新潟小学校では、子どもたちの実りを求めて保護者・地域の方々と協働していきます。